2023年度事業報告書

1-1 総会

(1) 定時総会

第66回定時総会を以下のとおり開催、各議案について審議の結果、原案どおり承認された。

日時　2023年6月1日 午後5時
会場　鉄鋼会館802、803、804会議室
議案　第1号議案　2022年度事業報告並びに収支決算の承認を求める件
　　第2号議案　2023 年度事業計画､収支予算並びに正会員・賛助会員会費分担額の承認を求める件
　　第3号議案　役員選任の件

(2) 総会書面決議

総会書面決議を以下のとおり実施、議案は原案どおり承認された。

決議日　2023年7月1日
議案　第1号議案　理事辞任に伴う後任者選任の件

決議日　2024年4月1日
議案　第1号議案　理事辞任に伴う後任者選任の件

1-2 理事会

理事会を以下のとおり開催、当工業会運営についての重要事項を審議決定、委員会関係の諸報告及び意見交換を行った。

臨時	2023年4月1日	書面決議
臨時	2023年5月17日	書面決議
第659回	2023年6月1日	午後5時45分～ 鉄鋼会館802、803、804会議室
第660回	2023年6月15日	書面決議
第661回	2023年6月26日	書面決議
第662回	2023年7月1日	書面決議
第663回	2023年9月28日	午後1時37分～アロマビル701会議室/WEB併用
第664回	2023年12月7日	午後3時55分～ アロマビル701会議室
第665回	2024年3月14日	書面決議
第666回	2024年3月21日	午後1時30分～アロマビル701会議室/WEB併用

1-3 会員数

会員の異動

摘要 会員別	年度初	入会	退会	年度末
正 会 員	10	0	0	10
賛助会員	31	0	0	31

1-4 役員の異動

(1) 理事

就任　島田　武浩　ＥＮＥＯＳ株式会社　(2023年4月1日付)
就任　高橋　真澄　一般社団法人日本芳香族工業会　(2023年4月1日付)
退任　足立　　聡　三菱ケミカル株式会社　(2023年6月1日付)
退任　八山　光秀　出光興産株式会社　(2023年7月1日付)
就任　宮岸　信宏　出光興産株式会社　(2023年7月1日付)
退任　村上　功一　丸善石油化学株式会社　(2024年4月1日付)

就任　蒲池　良二　丸善石油化学株式会社　(2024年4月1日付)

(2) 監事
退任　脇　　隆人　太陽石油株式会社　(2023年6月1日付)
就任　小川　隆史　丸善石油化学株式会社　(2023年6月1日付)

1-5 会員・役員(2024年3月31日現在)

(1) 正会員(五十音順)

会社名		当会に対する代表者
1	出光興産株式会社	宮岸信宏
2	ＥＮＥＯＳ株式会社	島田武浩
3	ＪＦＥケミカル株式会社	津﨑昌夫
4	住友化学株式会社	後田伸也
5	太陽石油株式会社	船木保宏
6	東ソー株式会社	堀内秀敏
7	日鉄ケミカル＆マテリアル株式会社	大谷星郎
8	富士石油株式会社	山本孝彦
9	丸善石油化学株式会社	村上功一
10	三菱ケミカル株式会社	定村裕之

(2) 賛助会員(五十音順)

会員名		当会に対する代表者
1	旭化成株式会社	柴入徹也
2	株式会社アスペンテックジャパン	稲生誠
3	伊藤忠商事株式会社	福井健
4	エヌ・イー ケムキャット株式会社	遠藤晋
5	大阪ガスケミカル株式会社	渡部吉彦
6	栗田工業株式会社	吉川たかし
7	ＫＴケミカルズ株式会社	吉川恭平
8	河野薬品株式会社	河野通宗
9	コスモ石油株式会社	境剛太
10	サンユインダストリアル株式会社	前薗正樹
11	ＪＦＥ商事株式会社	杉浦健一郎
12	新ケミカル商事株式会社	油嶋武晴
13	住友商事株式会社	深水大輔
14	住友商事ケミカル株式会社	杉山俊幸
15	双日株式会社	遠藤学
16	株式会社竹中商店	竹中繁夫
17	株式会社テイエルブイ	松浦為雄
18	テックプロジェクトサービス株式会社	岩瀬弥一郎
19	東京ガスケミカル株式会社	玄間隆之
20	豊田通商株式会社	津久井雄一
21	ニチアス株式会社	鳥塚幹夫
22	日揮ユニバーサル株式会社	遠藤博樹
23	日鉄環境株式会社	箭内朋子
24	伯東株式会社	寺本紀博
25	丸紅株式会社	大西裕明
26	丸紅ケミックス株式会社	衣畑雅寿
27	三井化学株式会社	永野伸一
28	三井物産株式会社	増田裕一

29	三井物産ケミカル株式会社	八田　直
30	三菱商事株式会社	栗山洋一
31	三菱商事ケミカル株式会社	古閑純之

(3) 役員

役職	氏名	所属
会長	津崎昌夫	ＪＦＥケミカル株式会社
副会長	宮岸信宏	出光興産株式会社
専務理事	高橋真澄	事務局
理事	島田武浩	ＥＮＥＯＳ株式会社
理事	後田伸也	住友化学株式会社
理事	船木保宏	太陽石油株式会社
理事	堀内秀敏	東ソー株式会社
理事	大谷星郎	日鉄ケミカル＆マテリアル株式会社
理事	山本孝彦	富士石油株式会社
理事	村上功一	丸善石油化学株式会社
監事	小川隆史	丸善石油化学株式会社

1-6 叙勲・褒章

2023 年度は当工業会の役員中、叙勲・褒章の受章者はなかった。

1-7 委員会(2024 年 3 月 31 日現在)

運営委員会	委員長	宮岸信宏	出光興産株式会社
	副委員長	新町　潤	太陽石油株式会社
ＢＴＸ委員会	委員長	橋本幸雄	丸善石油化学株式会社
	副委員長	濱田裕樹	ＥＮＥＯＳ株式会社
技術委員会	委員長	佐藤尊彰	富士石油株式会社
	副委員長	田島修示	丸善石油化学株式会社
環境安全委員会	委員長	藤井公昭	東ソー株式会社
	副委員長	安田謙太郎	三菱ケミカル株式会社
広報委員会	委員長	和才怜史	ＪＦＥケミカル株式会社
	副委員長	美澄幸弘	日鉄ケミカル＆マテリアル株式会社

1-8 芳香族製品及びタール製品の市場調査に関する事業

1-8-1 芳香族製品

(1) 芳香族製品に関する各種統計の作成・公表

・「芳香族製品国内生産出荷統計月報」
・「芳香族製品輸出入統計」
・「芳香族製品並びに誘導品に関する統計(年報)」
(上記各種統計は当工業会ホームページ上にて開示)

(2) 芳香族製品(海外動向)に関する講演会の開催

商社社員を講師とした講演会を実施した。
なお、本年度から講演テーマを BTX 需給環境のレビューとした。

開催日	ご担当商社	参加者数
2023 年 4 月 19 日	三井物産	27 名
2023 年 6 月 21 日	住友商事	17 名
2023 年 9 月 20 日	三菱商事	19 名
2023 年 11 月 22 日	伊藤忠商事	17 名

原則として対面にて実施したが、参加者数はＷＥＢ会議を併用した前年とほぼ同様であった(平均 20 名/回、前年 21 名/回)。

(3) 需要見通し作成とその検証

芳香族製品の安定供給を目的として、需要見通しを作成し、その結果を広く関係者の利用に供するため公表した(2024 年 3 月)。並行して関係諸官庁からの要請により、資源エネルギー庁の石油供給計画作成用データとして、改質生成油(ナフサ)需要見通しを作成した(2024 年 2 月)。

《2023 年実績と予測の対比》

ベンゼンの国内需要は、スチレンモノマー向け及びフェノール向けを始めとして概ね全部門で予測を下回り、対予測比で 88%となった。トルエンの内需も、主用途の不均化・脱アル向け及びその他(主にガソリン向け)が予測を下回り、全体では予測の 75%となった。キシレンについても、主用途の異性化需要が若干予測を下回り(対予測比 94%)、全体でも対予測比で 93%となった。この結果、BTX 国内需要は対予測比 89%となった。

輸出については、ベンゼンは対予測比 115%、トルエンは対予測比 112%と増加したが、キシレンは対予測比 92%となった。その結果 BTX 輸出合計値は 224 万トンとなり、予測並みであった。

輸出を含めた需要合計は、下表のとおり予測を下回り 863 万トンとなった(対予測比 91%)。

(数量:万トン)

	予測	実績	差異
BTX 需要合計 (国内需要+輸出)	944	863	-81 (-9%)

(4) 関係機関への調査協力等

石油連盟より依頼を受け、BTX、PX の生産及び需要実績を提供した(2 月)。

(5) 芳香族製品の概況

① 生産

2023 年は、ベンゼン 289 万トン(前年比 94%)、トルエン 122 万トン(前年比 85%)、キシレン 451 万トン(前年比 93%)となり、BTX 生産合計は 862 万トン(前年比 92%)と 1994 年以来の 900 万トン割れとなった。

② 内需

2023 年の内需は、ベンゼンは主力誘導品のスチレンモノマーを始めとして全ての需要部門で前年を下回り前年実績比 12%の減となった。トルエンも主要需要部門の不均化・脱アル向け等の減により前年比 25%の減少、キシレンも前年比 7%の減となり、BTX 合計では前年比 11%減の 639 万トンであった。

製品別内需状況は以下のとおりであった。

○ ベンゼン

ベンゼンの内需合計は 232 万トンと前年比 88%となった。国内需要の 5 割前後を占めるスチレンモノマー向けが前年比 92%、2 割強のフェノール･クメン向けも前年比 89%であった。他、シクロヘキサン・ヘキセン向け前年比 55%、MDI・アニリン向け前年比 98%、無水マレイン酸向け前年比 89%と全て減少した。

○ トルエン

トルエンの内需合計は 83 万トン、前年比 75%となった。主要需要部門の不均化・脱アル向けが前年比 65%、その他(主にガソリン)向けが前年比 69%と、ともに大幅に減少した。

○ キシレン

キシレンの内需合計は 324 万トン、前年比 93%となった。主用途の異性化向けが前

年比 94%と減少した。

③ 輸出入

○ 輸出

BTX 輸出合計は 224 万トン、前年比 100%となった。ベンゼンは、米国向けは減少したが、中国及び台湾向けが増加し、前年比 114%となった。トルエンは、主要輸出先の韓国向けが増加し、前年比 113%となった。キシレンは、韓国向けは若干増加したが、中国向け及び台湾向けが減少し、前年比 96%となった。

○ 輸入

BTX 輸入合計は 1.4 万トン、前年比 19%となった。内訳は、ベンゼンが 1.2 万トン、トルエンが 0.2 万トンであった。

この結果、BTX の輸出入バランスは 223 万トンの輸出超となった。

2023 年(暦年)主要製品生産及び内需実績　　(単位:万トン、%)

製品名	生産	前年比	内需	前年比
ベンゼン	289	94	232	88
トルエン	122	85	83	75
キシレン	451	93	324	93

1-8-2 タール製品

(1) タール製品に関する各種統計の作成・公表

・「タール製品生産出荷統計月報」
・「タール製品輸出入統計」
・「タール製品並びに関連品に関する統計(年報)」
(上記各種統計は当工業会ホームページ上にて開示)

(2) タール製品の概況

① 生産

タール製品の 2023 年の国内生産は、ピッチ 14.6 万トン(前年比 87%)、クレオソート油 60.5 万トン(前年比 92%)、95%ナフタリン 12.1 万トン(前年比 92%)となり、結果タール製品全体の生産量は、合計 87.2 万トンと前年比 91%となった。

また、原料となるコールタールの国内生産は 94.2 万トン、前年比 92%となった(参考:粗鋼生産量は 8,700 万トンで前年比 97%)。

② 内需

タール製品の内需合計は 88.1 万トン、前年比 96%と前年を下回った。

製品別内需状況は以下のとおりであった。

○ ピッチ

合計で需要の 8 割以上を占める電極向け及びコークス配合向けについて、電極向けは前年比 94%と減少し、コークス配合向けも前年比 81%と減少した。国内需要の合計は 15.6 万トン、前年比 92%となった。

○ クレオソート油

需要の 8 割以上を占めるカーボンブラック向け需要が前年比 95%と減少し、国内需要合計は 62.4 万トン、前年比 96%となった。

○ 95%ナフタリン

需要の 8 割以上を占める無水フタル酸需要が前年比 98%と若干減少し、国内需要合計は 10.0 万トン、前年比 97%となった。

③ 輸出入

○ 輸出
ピッチは0.08万トン(前年比120%)、95%ナフタリンが2.9万トン(前年比101%)。
○ 輸入
コールタール輸入量は0.3万トンであった(前年は0)。

2023年(暦年)主要製品生産及び内需実績　　(単位:万トン、%)

製品名	生産	前年比	内需	前年比
ピッチ	14.6	87	15.6	92
クレオソート油	60.5	92	62.4	96
95%ナフタリン	12.1	92	10.0	97

1-9 芳香族工業及びタール工業の技術の向上に関する事業

(1) 日本芳香族工業会大会の開催

第57回工業会大会は、前年に引続き現地＋WEB配信のハイブリッド方式にて以下のとおり実施した。

① 開催日　2023年10月25日～27日
② 場所　兵庫県姫路市アクリエ姫路(姫路市文化コンベンションセンター)
及びWEB配信(講演会及び発表会のみ)
③ 実施内容
・テーマ討論会　人材育成及びDX関連の3テーマを実施
・主催者挨拶　津﨑会長、佐藤技術委員長
・講演1　工藤 茂博 氏(姫路市立城郭研究室 学芸員)
演題「描かれた姫路城とその城下町」
・講演2　服部 成真 氏(中外炉工業 商品開発部開発探索課 課長補佐)
演題「工業炉の脱炭素化に向けた水素・アンモニア燃焼技術の開発動向」
・技術、研究発表　発表数14件
・見学会　SPring-8、SACLA(播磨科学公園都市内)
④ 参加者数　現地参加129名、WEB登録者92名

(2) 技術委員会の開催

技術委員会は、対面/WEB併用にて6回開催し、テーマ講演と諸課題(行事等)の検討を実施した。

① テーマ講演
5件の講演を行った。講演テーマ及び講演者は以下のとおり。
・「日鉄エンジニアリング 環境・エネルギーセクターにおけるカーボンニュートラルへの取組み」(4月)
日鉄エンジニアリング 環境・エネルギーセクター
シニアマネジャー 石橋 洋一 氏、他
・「熱電発電で持続可能な社会の構築に貢献」(7月)
Eサーモジェンティック 代表取締役 岡嶋 道生 氏
・「グリーンリファイナリー構想 林業と化学産業の架け橋」(9月)
日揮ホールディングス 林農資源事業チーム
プログラムマネージャー 加賀山 浩司 氏
・「AIの活用による自律型・設備管理へのパラダイムシフト」(12月)
アズビル アドバンスオートメーションカンパニー
プロフェッショナル 木幡 真望 氏、他
・「高精度プロセスモデルの活用とデジタルツインの実現に向けて」(2月)
シュルンベルジュ シニアプロセスエンジニア 和田 博文ジュニア 氏、他
② 諸課題、行事等の検討
・工業会大会(1-9(1)に記載のとおり)

・技術ミッション派遣(1-9(3)に記載のとおり)
・JIS 見直し(1-10 に記載のとおり)

(3) 技術ミッションの派遣

2019 年以来 4 年ぶりに韓国への技術ミッションを実施した。実施概要は以下のとおり。

・訪問時期　2023 年 11 月 13 日～17 日
・訪問先　蔚山(SK Geo Centric, Ulsan aromatics)、大山(Lotte Chemical)
・訪問者　佐藤委員長を団長とし、会員 9 社から 12 名、事務局 2 名、コンサル 1 名の計 16 名

参加者の感想では、生産設備の規模の大きさの他、遠隔監視、操作を含めた省力化が印象に残ったとのコメントが多数見受けられた。

この技術ミッション派遣は若手エンジニアの視野拡大に加え、同業他社との貴重な人脈づくりの場にもなっており、技術委員会の主要行事として定着している。

また、12 月の技術委員会にて佐藤団長から報告が行われた。

1-10 工業標準化等に関する事業

JIS 定期見直し

・ 本年度は、当工業会が所管する JIS については、定期(5 年毎)見直しの対象はなかった。
・ 2019 年度に日本規格協会へ見直しを回答した JIS K2435-1(ベンゼン)、-2(トルエン)、-3(キシレン)及び K2438(ピリジン類)、同じく 2020 年度に見直しを回答した K2425(クレオソート油、加工タール及びタールピッチ試験方法)について、会員会社参加の下、改定原案作成作業を進めた。

1-11 芳香族工業及びタール工業の環境・保安・製品安全に関する事業

(1) 環境安全委員会定例活動

環境安全委員会も、対面/WEB 併用にて 4 回開催し、情報交流会、テーマ講演及び懸案事項の検討等を実施した。

① テーマ講演

2 件の講演を行った。講演テーマ及び講師は以下のとおり。

・「当社における毒劇物管理について」(2023 年 12 月)
　日鉄ケミカル&マテリアル 環境安全部長 丸山 利和 氏
・「住友化学のエネルギー・GHG 管理とカーボンニュートラルに向けた取り組みについて」(2024 年 2 月)
　住友化学 レスポンシブルケア部 真鍋 沙希 氏

② 情報交流会の実施

各社の関心の高い案件について、事前アンケートを実施のうえ、意見交換を行った。

・「2023 年度の各社環境安全分野における重点課題(取組み)について」(2023 年 4 月)
・「協力会社に対する労働災害低減に向けた取り組みについて」(2023 年 7 月)
・「法申請の抜けを防ぐ仕組みについて」(2023 年 12 月)
・「緊急時対応・リスクコミュニケーション対応について」(2024 年 2 月)

(2) 法規制等への対応

当工業会に関係の深い国内外の法改正などについて対応した。

① 国内法対応

日本化学工業協会の国内法 WG に加入し、参考情報の提供等を実施した。

② 海外化学物質規制

韓国等の規制動向について、SDS 小委員会を中心に参考情報の共有を図った。

(3) 小委員会活動

SDS 小委員会(SDS の維持管理、他)

・同小委員会は、環境安全委員会の下部組織として、12 製品のモデル SDS の管理及び国内

外の化学物質管理等に関する情報交換等を行っている。
・本年度は、2023 年の安衛法改正へ対応すべく、モデル SDS の改定作業を進めた。

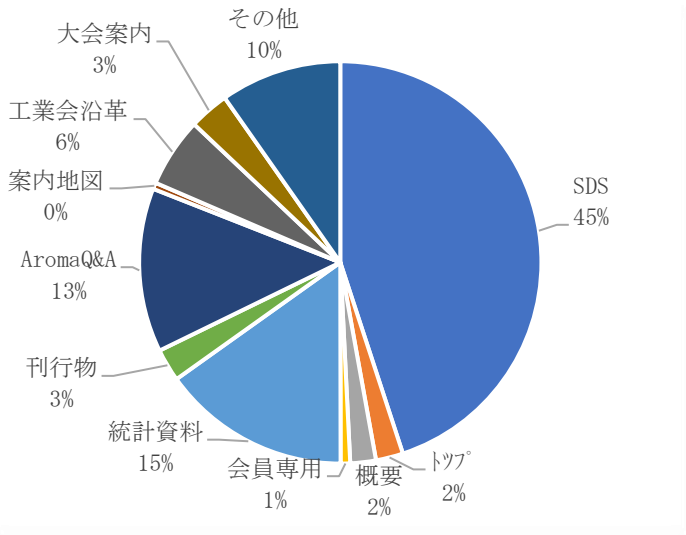
(4) その他
① 各種問合せ等への対応
一般消費者、官公庁等から芳香族製品の安全性、取扱い時の注意事項、処分・処理方法等について問合せがあり、会員各社の協力も得ながら対応した。
② 中央官庁の依頼に対する協力
各省庁からの調査及び周知依頼に対して適宜協力した。

1-12 芳香族工業及びタール工業の広報宣伝に関する事業

(1)ホームページの充実
会員向け情報提供の他、一般向けにも SDS 標準モデルや統計情報の公表の場として開設している。2023 年度のホームページアクセス実績は約 4,250 件/月となった。検索の蓄積により検索表示順位が上昇したこともあり、前年度対比では 20%の増加となったものと思われる。内訳では、SDS が年間 23,000 件程度のアクセス、全体 5 割弱を占め、引続き一定のニーズがあることを示している。

2023 年度ホームページアクセス実績

	合計	月平均	前年比(%)
S D S	22,953	1,913	102
ト ッ プ	1,119	93	118
概 要	1,049	87	126
会 員 専 用	392	33	107
統 計 資 料	7,743	645	136
刊 行 物	1,343	112	140
Aroma Q&A	6,734	561	155
案 内 地 図	260	22	72
工業会沿革	2,847	237	120
大 会 案 内	1,634	136	171
そ の 他	4,975	415	157
総 計	51,049	4,254	120



(2)機関誌「アロマティックス」の発行
各号毎の特集テーマ設定、関係業界からの投稿および連載記事等、更なる内容の充実を図りつつ、トピックとしては、コロナ禍後再開した技術ミッション報告を 4 年ぶりに掲載した。
会員各社の製造現場を広報委員が実際にお邪魔して各事業所について広く紹介する「出没!!広報委員が行く!!」については、現地またはオンライン取材を実施のうえ 3 回掲載した。

寄稿テーマ
・春季号(2023 年 4 月発行) 「設備診断分野へのデジタル技術の応用」他 1 編
・夏季号(2023 年 7 月発行) 「低芳香族溶剤製造用の低コスト貴金属触媒の開発」他 1 編
・秋季号(2023 年 11 月発行) 「丸善石油化学におけるリスクマネジメントの取り組み」他 1 編
・新年号(2024 年 1 月発行) 「酸化分解性ポリマー：使用中は分解しない分解性ポリマー」他 1 編

連載記事
・「記者リポート」(執筆者：重化学工業通信社)

・「出没‼広報委員が行く‼」（執筆者：広報委員）